
猫目石～短編～

芭瑠堵

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

猫目石〜短編〜

【Nコード】

N1726C

【作者名】

芭瑠堵

【あらすじ】

主人公、美奈の前に現れた黒猫”クロト”と白猫”ミルク”。猫目石をもつことで狙われる美奈を助ける二匹だが。どうやら、この猫達と猫目石には関係が……。

「ねえ、なんでクロトは私に猫目石をくれたの…?」

「……………」

私の前にいる、一見すればただの黒猫のクロトは黙ったまま。普通の黒猫とは違って話せるんだから、なにか言ってくれればいいのに…。

そう、この黒猫”クロト”と会ったのは一週間前な…ハズ。そいで、私の前に現れたのはクロト一匹だけでなく白猫の”ミルク”と共に前触れなく現れたのだ…。

『やあ！君が美奈だね。』

僕はミルク。んでもってコイツが…』

『クロトだ…』

いきなり現れた、人語を話す猫達。

最初は信じられなくて、現実逃避したけど事実で…。

『君は狙われているんだ！』

だから、僕達を守ってあげるにや』

『……………』

そう言われてから、数日後は子供の悪戯か？と思うものから当たってたら命すら危険なものまで狙われるようになった。

この変な猫のせいだと思つたら、どうやらこの私が持っていた猫目石が問題だった。

物心がつく前から持っていたこの蒼く綺麗に輝く猫目石。それを捨てればと思つたがなかなか、手放せなくて……………。

それでも、猫達は私を守り続けてくれた。尋常じゃない不思議な力で……………。

しかし、私は狙う者達に捕まってしまった。

『さあ、早くそれをよこすのだ！！』

『い、嫌だつて言つてんだろ！つるっばげ！！！！』

『このっ！小娘の分際でええ！！』

『いやあー!!』

無理やり、取るうとするオヤジ。

けれど、オヤジは何らかの力で私から猫目石は取れなかった。
わからないが？

そんなこんなで、クロトがいち早く私を助けに来てくれた。

…その時の会話が、気になったのだ。

『ほう。お前だな、そいつの持っている猫目石の持ち主は……』

『それが、どうした…早く、美奈を解放しろ!!』

あんなに激怒したクロトを初めて見た。

そして、オヤジがいった猫目石の持ち主がクロトだと…。

私は、何とかクロトと後からきたミルクのおかげで無事に帰ることができた。

でも…あの謎は未解決のまま……。

その事実が知りたくて、クロトではなく
ミルクに事情を聞いてみた。
しぶしぶ、答えてくれた。

『そのオヤジが言っただのは本当の話だにや…
理由は知らないけど、いつかだか美奈に自分の目をあげたのは確
かだにや』

それで、今に至る。

何故、大切である自分の目を私にくれたのか？

それが知りたくて、今度は本人に直接聞いてみたが

さつきからこの調子でしゃべってくれない。

いくら無口だからって、答えてくれてもいいのに……。

「ねえ…だまってないで答えてよ！クロトっ」

「…大事だからに決まってるだろ」

「えっ…？」

やっと、クロトはしゃべってくれた。

でも…大事だからって???

「どっしどっしとっ」

クロトとは、一週間前くらいに会ったばかりなのに
どーしてそう言えるのかわからなかった。

「覚えていないなら…いい」

「え？覚えてるって、いったい何なの？！」

「いいから、忘れる！」

「知りたいよークロトオ」

「甘ったれた声だすな。気持ち悪い…」

「失礼ねー！クロトのバカア！！」

しゃべったと思ったら、何よ！

気持ち悪いとか、失礼しちゃうわねー。

「もうっ、いいわよー！！」

私は腹を立て、自分の部屋に引きこもった…。

「ねえ〜え、言ってあげればいいじゃん？」

あんなに知りたがってるのにさーあ」

「忘れてるなら、いいんだ…いちいち説明しなくても」

「そーんなに、恥ずかしいかな？」

大事だーとかまで言ったくせに…」

「うるさい！だまれっ」

てくてくと、外へ旅立つクロト。

「素直に言えばいいのに…」

命の恩人だから大切なんだってさ！

┌

自分を助けてくれた

(後書き)

長編用にと考えた猫目石シリーズをちょっとだけ、短編にしてあらすじ？みたいなのを書いてみました。まだ、連載中の作品が残っているので書き終わったら、またこの猫目石く短編くを長編シリーズに賦活させたいと思います！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1726c/>

猫目石～短編～

2010年10月9日17時48分発行